

2024年5月26日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第67巻第9号(通算3391号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

小さくされている人を  
大切に<sup>たいせつ</sup>する<sup>きょうかい</sup>教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に<sup>たいせつ</sup>にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)



さんみいったいしゅじつれいはい  
**三位一体主日礼拝**  
せいれいこうりんせつだい しゅじつれいはい  
**(聖霊降臨節第2主日礼拝)**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜんそう もくとう 前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば 招きの詞 イザヤ書 40章 28-31節

さんびか 賛美歌 21-352番「来たれ全能の主」(©著作権消滅)

せいしよ 聖書 詩編 37編 23-40節

いのちのお祈り

さんびか 賛美歌 21-360番「人の目には」(©著作権消滅)

メッセージ 「手を離さないで」

みづたに けん ぼくし 水谷 憲 牧師

さんびか 賛美歌 21-521番「とらえたまえ、われらを」(©著作権消滅)

しゅいの 主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

たんじょうしゃしゆくふくしき 誕生者祝福式

みづたに けん ぼくし 水谷 憲 牧師

ささげもの 献げ物(\*)

はけん 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゆくふく 祝福

みづたに けん ぼくし 水谷 憲 牧師

こうそう 後奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讃美歌委員会)

ほうこく 報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

- 28 あなたは知らないのか／聞いたことはないのか。  
主は永遠の神／地の果てまで創造された方。  
疲れることなく、弱ることなく／その英知は究め難い。
- 29 疲れた者に力を与え／勢いのない者に強さを加えられる。
- 30 若者も疲れ、弱り、若い男もつまずき倒れる。
- 31 しかし、主を待ち望む者は新たな力を得／鷲のように翼を広げて舞い上がる。  
走っても弱ることがなく／歩いても疲れることはない。

聖書 詩編 37編 23-40節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

- 23 人の歩みは主によって確かなものとされ／その人の道を主は喜ばれる。
- 24 彼は倒れても、打ち捨てられることはない。／主がその手を支えてくださる。
- 25 私は若者であったときも、年老いた今も／正しき者が捨てられ  
その子孫がパンを乞うのを見たことがない。
- 26 日ごと憐れみ、貸し与える人／その子孫は祝福にあずかる。
- 27 悪を避け、善を行え。／そうすれば、とこしえに住むことができる。
- 28 主は公正を愛する方。／主に忠実な人々を見捨てることはない。  
彼らはとこしえに守られるが／悪しき者の子孫は絶たれる。
- 29 正しき者は地を受け継ぎ／いつまでもその地に住む。
- 30 正しき者の口は知恵を述べ／その舌は公正を語る。
- 31 その心には神の律法があり／その歩みが揺らぐことはない。
- 32 悪しき者は正しき者を待ち伏せし／殺そうとする。
- 33 主は彼を悪しき者の手に委ねることはなく／裁きの時も、罪に問うことはない。
- 34 主に望みを置き／その道を守れ。  
主はあなたを高く上げて地を受け継がせてくださる。  
あなたは悪しき者が絶たれるのを見るであろう。
- 35 私は見た、悪しき者が残忍で／青々とした野生の木のように生い茂るのを。
- 36 しかし、<sup>a</sup>私が通り過ぎると／見よ、彼はいなかった。  
捜し求めても、見つからなかった。
- 37 全き人を守り、まっすぐな人を見よ。／後の繁栄は平和の人にある。
- 38 背きの罪のある者はことごとく滅ぼされ／悪しき者の後の繁栄は絶たれる。
- 39 正しき者の救いは主から来る。／主は苦難の時の砦。
- 40 主は彼らを助け、救い出してくくださる。  
主は悪しき者から助け出し、救ってくださる。／彼らが主に逃れたから。
- (脚注 a：ギリシャ語訳による。ヘブライ語原典では「彼が」)

## 《先週のメッセージより》5月19日 ペンテコステ（聖霊降臨日）礼拝

「立場から解き放たれて」より

牛田匡牧師

聖書 使徒言行録 2章1-13節

本日は弟子たちの上に「聖霊」が降って教会が誕生したと言われている「ペンテコステ」です。「聖霊」と言われても、目で見ることでも手で触れることも出来ないのです、一体何なのかよく分かりません。聖書によると、「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり」「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語るままに、他国の言葉で話した」（2-4節）とあります。エルサレムの都には、遠くはローマ、エジプト、メソポタミアなど、何百キロ、何千キロも離れた国や町から、大勢の人々が集まって来ていました。様々な土地から集まって来た多くの人々は、それぞれの土地の言葉を話し、また肌の色も多様であったでしょう。彼らをつなげていたのは地縁や血縁ではなく、ユダヤ教徒であるということ、つまり律法を守り、律法に従った生活をするということでした。

それぞれが生まれ故郷の言葉を急に耳にしたのは、聖霊を受けた弟子たちが突然、超能力者になって学んだことのない外国語を話せるようになった、ということではなく、むしろ、聞くはずがないと思っている所で、それらの言葉を聞いた側の「聞く耳が開かれた」ということなのではないかと思えます。つまり、ユダヤ人、ユダヤ教徒らしく、律法を守らなければならない。「○○しなければならない」という立場へのこだわりから解放されて、それぞれが自分たちの言葉で神の偉大な業を語る事ができ、聞くことができるということに気付くことができた、ということなのではないでしょうか。聖霊は、目には見えませんが、確かに存在し、私たちに働きかけてくれる存在です。その聖霊に励まされる時、私たちは「こうしなければならない」「そんなことあるはずがない」という立場から解き放たれて、ありのままの自分の気持ちに素直になり、またあるがままの社会の現実に対して素直に目を注ぎ耳を傾けられるように変えられて行くのではないかと思えます。私たちは今日もここから、聖霊によって力付けられながら、歩みを進めて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



